

設 立 趣 旨 書

MERI (Medical Education & Research Institute)・・・この施設は医療の質と安全の向上の為に、医療技術教育や医療技術・機器の研究・開発の機会を提供する施設としてアメリカ・テネシー州のメンフィスに存在します。そこでは Cadaver (献体：亡くなられた本人または家族の意思により寄付される遺体)を対象としたサージカル・トレーニング・コースが行われ、“手術スキルを高めたい”“最新の手術テクニックを習得したい”そして“より良い治療を患者に提供したい”と考えている外科医がそのコースに参加しています。毎年、数多くの外科医が MERI を訪れ Cadaver コースに参加して、その経験を患者の治療に役立てています。欧米ではこのような施設が以前から存在し、自国の医療に貢献しています。最近では欧米のみならずアジア(中国、韓国、タイ、シンガポール等)やオーストラリアにも施設が設立されて同様に自国の医療に貢献しています。しかし、日本には MERI のような施設が未だ存在しません。そればかりか献体をサージカル・トレーニングで使用することができません。法整備がなされていないことが理由の一つです。医療技術の習得のためには、外国まで行って外国の施設と外国人の Cadaver を使用してトレーニングを受けなければならないこともあるというのが日本の現状です。

そして、医療を取り巻く環境は変化し続けています。それに伴い医療へのニーズは多種多様となり新しい医療技術に対する期待は大きくなるばかりです。しかし、新しい医療技術にはメリットも期待できますが、リスクも伴います。新しい医療技術が安全に普及していくには“外科医が確かな基礎技術を持った上でしっかりとしたトレーニングを受ける”“新しい医療技術についてはしっかりとした検証を行う”“新しい医療技術のメリットばかりでなく、その限界やデメリットを外科医も患者も知っておく”こと等が必要だと私たちは考えています。

日本の医療は日本国民のためのものです。ですから医療の質と安全については私たち日本国民みずからが担うべきです。医療技術の習得や開発のために外国の施設や善意にいつまでも頼るべきではありません。私たちは日本の医療の質と安全性の向上への貢献を目指して、以下の活動を中心に行う特定非営利活動法人 MERI Japan を設立する決意をしました。

- これからの医療・新しい医療技術についての情報等を提供することにより、望ましい医療・安全で安心な医療について考える機会をつくります。
- 献体がサージカル・トレーニングや研究に使用できる法整備がなされるように、政府に働きかけます。
- 献体が医療技術の習得・発展に必要であることについての議論を医療関係者から一般国民へと広げて、その議論を通じて世論の理解を求めます。
- “献体”というテーマを通じて、“Living Will” “Dying Program”などの福祉に

関するテーマ（より良く生きぬき、より良く死に行くにはどのような枠組みが必要か？）にも取り組みます。

国民の誰もが質の高い医療を安心して受けられる社会の実現に向けて、私たちは活動します。医療関係者のみならず、医療に関心のある様々な立場の方々にも参加していただき、献体のあり方を通して医療、福祉の充実に貢献したいと考えております。

2006年9月24日

特定非営利活動法人 MERI Japan

理事長 蜂谷裕道

理事 石黒直樹

糸満盛憲

小野寺良修

北口雅章

木村重夫

佐藤公治

清水克時

辰巳治之

土屋雅彦

出沢明

平川和男

水谷良亮

山川達郎

監事 久納幹史